TADOKU JUNIOR　イソップ物語　★★★☆☆ ふつう　299語

The Wolf and the Lean Dog

オオカミとやせた犬

Aesop（1919年の本）　**原文そのまま**　朗読：Lee Smalley

人の声の朗読
を聞く・Web版

どんなおはなし？　やせた犬をつかまえたオオカミ。犬は「何日かしたら、ふとっておいしくなりますよ」と言います。オオカミはまつことに……。



A Wolf prowling near a village one evening met a Dog. It happened to be a very lean and bony Dog, and Master Wolf would have turned up his nose at such meager fare had he not been more hungry than usual. So he began to edge toward the Dog, while the Dog backed away.

"Let me remind your lordship," said the Dog, his words interrupted now and then as he dodged a snap of the Wolf's teeth, "how unpleasant it would be to eat me now. Look at my ribs. I am nothing but skin and bone. But let me tell you something in private. In a few days my master will give a wedding feast for his only daughter. You can guess how fine and fat I will grow on the scraps from the table. Then is the time to eat me."

The Wolf could not help thinking how nice it would be to have a fine fat Dog to eat instead of the scrawny object before him. So he went away pulling in his belt and promising to return.

Some days later the Wolf came back for the promised feast. He found the Dog in his master's yard, and asked him to come out and be eaten.

"Sir," said the Dog, with a grin, "I shall be delighted to have you eat me. I'll be out as soon as the porter opens the door."

But the "porter" was a huge Dog whom the Wolf knew by painful experience to be very unkind toward wolves. So he decided not to wait and made off as fast as his legs could carry him.

Do not depend on the promises of those whose interest it is to deceive you.

> **Take what you can get when you can get it.**

ある夕方、村の近くをうろついていたオオカミが、1ぴきの犬に出会いました。それはたまたま、とてもやせてほねばった犬で、オオカミさんは、いつもよりおなかがすいていなかったら、こんなまずそうなごちそうには見むきもしなかったでしょう。そこでオオカミはじりじりと犬に近づき、犬はあとずさりしました。

「だんなさま、ちょっと思い出していただきたいのですが」と犬は、オオカミがパクッとかみつくのをときどきよけながら言いました。「今わたしを食べても、ちっともおいしくありませんよ。わたしのあばらぼねを見てください。わたしは、かわとほねばかりです。でも、ないしょでお話ししたいことがあります。何日かしたら、わたしのご主人が、たった1人のむすめさんのために、けっこんのおいわいをするんです。テーブルののこりものを食べて、わたしがどんなにまるまるとふとるか、わかるでしょう。わたしを食べるなら、そのときですよ。」

オオカミは、目の前のがりがりの犬よりも、まるまるふとった犬を食べられたらどんなにいいだろう、と思わずにはいられませんでした。そこでオオカミは、ベルトをきゅっとしめておなかのすいたのをがまんし、またくるとやくそくして帰っていきました。

何日かたって、オオカミはやくそくのごちそうを食べにもどってきました。オオカミは、ご主人のにわにいる犬を見つけて、出てきて食べられるようにと言いました。

「だんなさま」と犬はにやりとして言いました。「食べていただけるなんて、とてもうれしいです。門番が戸をあけたら、すぐに出ていきますよ。」

ところが、その「門番」というのは、大きな犬でした。オオカミは前にいたい目にあって、その犬がオオカミにはとてもきびしいことを知っていました。そこでオオカミは待つのをやめて、いちもくさんににげていきました。

だまそうとしている相手のやくそくを、あてにしてはいけません。

> **手に入れられるときに、手に入れておきなさい。**

たんご と クイズ　オオカミとやせた犬

Wolf オオカミ	**village** 村	**Dog** 犬
ribs あばらぼね	**bone** ほね	**wedding** けっこんしき
door 戸、ドア		

Q1 犬は、何日かしたらふとるのはどうしてだと言った？

① ご主人のむすめのけっこんのおいわいがあるから　② 冬になるから　③ 新しい家に行くから

Q2 犬の言った「門番」とは、ほんとうは何だった？

① ご主人　② 大きな犬　③ ネコ

こたえ

Q1 ①　ご主人のむすめさんのけっこんのおいわいで、ごちそうののこりをたくさん食べられる、と言いました。

Q2 ②　「門番」は、オオカミにとてもきびしい大きな犬でした。だからオオカミはにげだしたのです。

原田英語の多読ベストジュニア

本物の英語の絵本 1,000話以上を、原文・人の声の朗読・和訳つきで。ゲーム・なぞなぞも。ぜんぶ無料・登録なし。

haradaeigo.com/tadokubestjr/

出典　英文：原文そのまま（1語も書きかえていません）。Project Gutenberg 電子書籍 #19994（Aesop、1919年）。パブリックドメイン。
挿絵：この本には挿絵がないため、場面をイメージして AI（Codex）で描いた絵です。
朗読（Web版）：Lee Smalley（LibriVox のボランティア。パブリックドメイン）
和訳・クイズ：AIと人が作成。AIは３重チェック。人の目でも順次確認しています。